

ハワイ大学国際学会への参加報告

ユン ジンヒ
尹 珍喜

YOON Jin-Hee

博士（社会科学）お茶の水女子大学

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科研究院研究員

2010 年度奨学生

国際教育学会への参加

私は、2012年7月31日～8月2日に開催された「ハワイ大学国際学会(Hawaii University International Conferences)」に参加した。この学会に参加しようと決心したのは、今まで家族関係学や社会学をフィールドに研究を進めてきて博士論文を完成したが、今後、どのように自分の研究を発展させるのかについて、隣接する研究領域の研究成果から示唆を得たいと考えたからであった。初参加であった国際学会は、比較的にこじんまりした雰囲気であった。「教育」というテーマを中心に様々な分野での研究が報告されており、とても新鮮に感じられた。



写真1：マリオットホテルの会場

興味を持った発表に、中国における、郡部出身の労働者に対する偏見や差別についての、メディア分析を行っていたものがあつた。現在、自分の研究を、韓国において、偏見や差別の対象となっている、脱北者の若者の自立の研究へと発展させられないかと考えていたところだったので、その際に、新聞など、メディアにおける言説をデータとして分析していくという方法があることに思い至ることができ、とても大きな収穫であった。

ハワイ州立図書館での資料収集

島根県の田舎に住んでいるために、なかなか十分な海外の文献に触れることができないので、学会の合間に、ワイキキからバスで30分ほどのダウンタウンにあるハワイ州立図書館を訪ねた。ハワイ州立図書館は、歴史を感じさせるとても優美な建物であった。中央が吹き抜けになっており、その周囲のテラスのような部分に机が置かれ、ゆったりした雰囲気勉強している大学生らしき人たちがたくさん見られた。こんなところで研究をしたら、きっとたくさん論文がかけるのだろうな、とすっかりうらやましくなっ

てしまった。



写真2：ハワイ州立図書館の前で

ハワイの若者はどんな本を読んでいるのだろうかという興味から、'Yong Adult' コーナーにも行ってみた。そこで驚いたのは、様々な小説や雑誌がある中で、「ONE PIECE」、「NANA」、「のだめカンタービレ」といった日本のコミックが英訳されてずらりと並んでいたことである。韓国の書店にも日本のコミックが大人気であることを考えると自然な事柄にも思えるが、こうやってアメリカの若者がコミックを通じて日本の文化に接するようになっていることに、文化伝達における漫画のパワーを強く感じた。

また、個人的な興味でのぞいた語学や外国文化コーナーでは、韓国語や日本語の入門書がいくつか入っていたが、その内容の古さには少し笑えた。要するに、間違っているとは言えないが、現代の日

常生活では使いそうもない例文がいくつも書いていたのである。もしかして、私が今しゃべっている英語表現もこんな感じではないかという考えに至って、背筋が寒くなる瞬間であった。

ビショップ博物館で文化体験

今回の学会参加以外で、もっとも勉強になったのはハワイの文化的背景を詳しく知ることができたことであった。ビショップ博物館は、ハワイ王朝、カメハメハ王家直系の末裔にあたる王女 B. P. ビショップ (Bernice Pauahi Bishop) の追悼記念として 1889 年に建てられたものである。ハワイを含め、トンガ、タヒチ、アオテアロア (現、ニュージーランド)、サモア、フィジーの 6 カ国を指すポリネシア文化圏の人類学、生物学、自然科学の学術的収集品が数多く展示されている。特に、ハワイアン・ホールでは、古代ハワイ人の世界観や日常の生活道具のみならず、カメハメハ大王から始まる歴代の王や女王の物品を観覧することができた。このように、ハワイ固有の文化遺産を大事にしつつ、アメリカ人としてのアイデンティティを持つことが可能なのは、アメリカ人の多様性を尊重する政策に起因するのだろうか？ハワイでの最後の夜は、ハワイ伝統料理のレストランで、カルアピッグ、ポイ、ラウラウを食べながら、文化人類学からのアプローチの面白さを楽しみじみと考えていた。



今回のハワイ大学国際学会への参加は、自分の人生において、博士論文の完成とともにこれからの研究への方向性を模索するための重要な機会となった。今回のハワイ大学国際学会への参加を可能にくださった、渥美財団に、この場を借りて感謝の気持ちを申し上げたい。

写真 3：ビショップ博物館内ハワイアン・ホールの前にて



写真 4：ハワイ空の虹